

# TABLE FOR TWO

テーブルの向こう側から

これまで給食  
82,354,418食分の  
ご寄付が集まりました！



ルワンダ バンダ村

## 地域へ 未来へ 学校給食が与える希望

新型コロナウイルス感染症の影響で休校になっていたルワンダのバンダ村でも、2021年1月に全学年の授業が再開されました。

バンダ村では現在、幼稚園3園と小・中学校2校の生徒2346人に学校給食を提供しています。バンダ村は隣接の村に比べて授業再開後に学校へ戻ってきた生徒が多く、先生たちは給食プログラムのおかげだと感謝の言葉を口にしました。授業と給食を楽しみに戻ってきた生徒たちは、医者や看護婦になる夢を実現するために、勉強の遅れを早く取り戻したいと話してくれました。



今年に入って25名の子どもたちの健康状態が改善し、栄養失調児を対象に特別食を提供するプログラムから卒業しました。新たに支援対象となった子ども向けては、健診と検査が実施され、6割が栄養失調の主な原因が寄生虫であることがわかり、必要な処置が行われました。



給食プログラムの再開後、給食を運ぶポーター達も仕事に復帰しました。給食は村のキッチンで調理し、24名のポーターたちが各学校に運搬します。休校は学校に通う生徒だけでなく、給食プログラムに関わる多くの人々にも大きな影響を与えました。

ルワンダ  
バンダ村



日本  
千葉  
愛知

## 世界を繋ぐ ひとつの テーブル

わたしの一食が、  
あの子の一食になる。



千葉銀行では、本社移転を機に食堂にTFTプログラムを導入し、職員に対し積極的な利用を呼びかけています。更に地域社会にも支援の輪を広げるため、報道関係者向けにTFTメニューとして「チキンと温野菜のサルサソース」の試食会を実施しました。ヘルシーな鶏むね肉を使用し、野菜は蒸すことで栄養を温存、さらにピリっとパンチのあるサルサソースで食べ応えも十分です。



TABLE FOR TWO は開発途上国との飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む、日本発の社会貢献運動です。

© TABLE FOR TWO International



リックでは、サンクスカードを通して感謝・称賛の気持ちをWEB上で贈り合う「褒め活」を実施し、社員の心の健康増進を開発途上国との子ども達の健康増進につなげています。このサンクスカード1枚につき20円(学校給食1食分)をTFTへ寄付する取組が、TFT参加企業からの支持を集め、第二回TFTアワード「心と体の健康増進部門」に入賞しました。



子どもたちの健康を定期的にモニタリングする保健師



寄生虫駆除の薬を飲む子ども

## バンダ村 特別食プログラム

ルワンダのバンダ村では、学校給食プログラムに加え、栄養失調と診断された子どもに対する特別食プログラムもサポートしています。貧困率の高いこの地域では栄養失調の子どもが多く、常時60名ほどの子どもに対し、栄養価の高い特別食を週3回、ルワンダのお粥であるソソマを週5回提供しています。このプログラムはルワンダ政府の保健センターと共に実施しており、保健師がプログラムに参加している子どもたちの健康状態を定期的にモニタリングしています。また、保護者に対して、家庭でも栄養のある食事を提供できるよう、栄養に関する知識や家庭菜園についても指導しています。プログラムが始まった当初は、最も深刻なレベルの栄養失調と診断される子どもが多くいましたが、最近は軽度の栄養失調と判断される子どもが増え、改善の傾向が見られます。

## バンダ村の立地と特性

バンダ村はルワンダの南西部にあるニュングエ森林国立公園の近くにあります。コンゴ民主共和国との国境にあるキブ湖に近く、アフリカでもっとも古い熱帯雨林の一つです。チンパンジーをはじめとして12種の霊長類や豹などのネコ科の野生動物が生息しています。バンダ村を含む周辺の村の人々は自給自足の農家が多く、現金収入源が少ないことから国立公園に入り密猟をする人もいます。バンダ村では、給食プログラムにより給食の調理や給食を運ぶポーターの雇用が生まれ、安定した現金収入源となっています。



# 学校再開後のバンダ村の生徒 / 保護者の声



レベッカ 11歳(小学3年生)

学校に来て、毎日お粥がたべられることに感謝しています。政府からの援助でパンも食べられるようになって、私たちはラッキーだと思います。もうこれ以上授業を休むのは嫌です。大きくなったら看護師になりたいので、勉強を頑張っています。

ジャスミン 16歳(中学校1年生)

お父さんが亡くなり、お母さんは、私と3人の兄弟のために他の人の農場で働いていますが、生活は苦しいです。早く大きくなってお母さんをサポートしたいと思います。学校で給食が食べられるので、あとは卒業までしっかりと勉強をしたいです。



ボンフェア 13歳(小学校6年生)

お姉さん、妹、弟も皆学校で給食を食べています。家にラジオがなく、学校が休みの間は勉強することができませんでした。英語のレベルが下がってしまったと感じています。学校が再開し、給食のおかげで、熱心に勉強に取り組むことができます。将来はジャーナリストになりたいです。

エスペランス 27歳(子どもが2人いるシングルマザー)

近所の知人のところで働きながら、なんとか子どもを食べさせています。長女は初め栄養失調児向けの特別食プログラムに入っていましたが、今は幼稚園で給食を摂ることができるようになりました。とても嬉しいです。このプログラムが続けられるよう、ボランティアとして働きたいと思っています。プログラムについてはいくらお礼を言っても言い切れません。



ダニエル 67歳

私は12人の子どもがいます。3人はすでに成人し結婚していますが、学校に通う子どもが8人います。子どもたちは全員給食プログラムの恩恵を受けています。こんなに多くの子どもを十分に食べさせるのは、とてもお金がかかり大変です。このプログラムがなければ、子どもたちは学校に行ていなかったと思います。本当に感謝しています。



## 各国の近況

### — RWANDA 感染状況に左右され続ける市民生活

世界的に新型コロナウイルスの変異種が流行していますが、東アフリカも例にもれず感染者が増えています。ルワンダは、6月の半ばからコロナウイルスの陽性者が急増し、それまで一日平均100名以下であった陽性者が、7月半ばのピーク時には一日3000名近くまで増えました。この状態に危機感を持ったルワンダ政府は、夜間外出禁止令(午後6時から翌午前4時)を発令し、感染者の多い首都キガリと他8地域で、やむを得ない場合を除き外出禁止、食糧や医療など基礎サービス以外の商店の閉鎖など、厳しい行動制限を行いました。その結果、8月に入って陽性率が10%から4%まで下がりました。8月12日には制限が緩和され、飲食店なども再開が許可されました。

### — TANZANIA タンザニア大統領 ワクチンを率先接種

昨年、先の大統領の死去に伴い着任したタンザニアのサミア・シュルフ・ハッサン大統領は、コロナ感染症に懐疑的であった前大統領の方針を転換し、国民に進んでワクチンを接種するように呼び掛けています。7月後半に最初のワクチンがタンザニアに到着し、大統領がワクチンを接種している様子がテレビで放映されました。ハッサン大統領は、自分は赤ちゃんの時から他のワクチンを受けてきて安全なことは解っているので、このワクチンもコロナウイルスから自分を守ってくれると思うと、ワクチンの安全性についてインタビューで語っています。



タンザニアのハッサン大統領がコロナウイルスワクチンを接種している様子 写真:APNews

### — KENYA ケニアを襲う第4波

ケニア政府は、TFTがサポートをするルシンガ島とムファンガノ島があるビクトリア湖地域で6月半ばからコロナウイルスの陽性患者が急増したため、付近の13郡に対して、午後7時から翌朝4時までの外出禁止、生活必需品以外の市の禁止、集会やスポーツの禁止を発表しました。7月末にこの規制は解除されましたが、8月に入ってからケニアでは再びコロナウイルスの陽性患者が増加しており、第4波が来たといわれています。学校の先生は、警察官や医療関係者と同じく、優先的にワクチンを受けることができます。